

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 6月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2278300229
法人名	医療法人社団 大法会
事業所名	グループホーム 耀(かがやき)
所在地 (電話番号)	浜松市浜北区永島 675-1 (053-585-5452)
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年4月18日

【情報提供票より】(平成21年3月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 01 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14.8 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り 2階建ての1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(70,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年3月30日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84.2 歳	最低	68 歳
		最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠江病院(歯科含む)・遠州病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して7年目を迎えており、浜松市の静かな郊外に位置する。ホームの名称「耀(かがやき)」の通り、利用者の内なるものがきらめき活気に溢れるよう、職員一同誠意を持って利用者を支援している。また、地域密着型に相応しい理念に基づき、利用者の意思・ペースを尊重し、居心地の良いホーム作りに努力している。利用者の機能低下への対応が課題となってきたが、幸い法人医療機関のバックアップ、利用者や家族・近隣との良好な信頼関係があり、それを活かして更に利用者一人ひとりが耀くホーム作りに邁進されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の指摘項目は、災害対策・居心地のよい共用空間づくりは改善されていた。利用者の機能低下やレベルの差もあるが、日常的な外出支援については、ユニット間の協力などによる工夫が求められる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票は、職員全員で話し合っ作成された。職員は年初に「今年度の個人目標」シートに私の目標を記入し、自己反省と目標達成度を記入し、管理者とともに総括を行い、今後の課題を明確にしている。自己評価や外部評価を真摯に受け止め、改善に取り組んでいる。</p>
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回確実に開催されており、2ヶ月間の施設の現状や問題点などが話し合われている。報告は良いことばかりでなく、中・小の事故の詳細な報告が特徴的である。自治会ははじめ利用者・家族・民生委員・区役所職員等とともに、サービスの質向上に積極的に取り組んでいる。参加者の交流の場にもなるため、曜日や時間などを変えて開催するなどの工夫や努力もされている。</p>
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>重要事項説明書等に内外の苦情・相談窓口が明記され、家族と職員との間の信頼関係が築かれており、気楽に意見が言い易い関係にある。面会時や運営推進会議での意見はカンファレンスで共有し、運営に活かしている。利用者の暮らしが、写真入りのホームの「耀だより」で定期的に家族等に報告しており、担当職員からそれぞれ利用者にふさわしい言葉が添えられている。</p>
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域との連携や理解は深く、自治会に加入して地域の節分・草刈・交通安全教室への参加、大正琴のボランティア・小中学生の体験学習の受け入れ等の相互交流も多い。夏まつりでは利用者が作った紫蘇巻きが好評を博したり、利用者だけで参加しても、地域の方が安全に優しく見守りをしてくれるような関係になっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険法改正後、地域密着型に相応しく理念を改定し、「・・・住み慣れた地域で・・・」と謳い、独自の理念を掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の筆で書かれた理念が事務所内に掲示され、理念の共有や実践に向けて日々意識付けされている。また職員は年初に「今年度の個人目標」シートに私の目標を記入し、自己反省と目標達成度を記入し、管理者とともに総括を行い、今後の課題を明確にしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域との連携や理解は深い。地域の節分・草刈・交通安全教室への参加、大正琴のボランティア・小中学生の体験学習の受け入れ等の相互交流も多い。夏まつりに利用者だけで参加しても、地域の方が安全に優しく見守りをしてくれるような関係になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価の意義をよく理解しており、職員全員が今回の自己評価に取り組み、年に一度自分を振り返る良い機会としている。外部評価の結果は、運営推進会議でも報告され、職員のみでなく利用者を取り巻く人々が改善に向け具体策などの検討を行い、評価を実践につなげる努力をしている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度確実に実施されており、2ヶ月の報告とともに、中・小の事故の詳細な報告が特徴的である。自治会ははじめ利用者・家族・民生委員・区役所職員等とともに、積極的に取り組んでいる。参加者の交流の場にもなるため、曜日や時間などを変えて開催するなど、なるべく多くの家族が出席できる努力もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に報告・連絡・相談を行うとともに、毎月市の介護相談員も受け入れている。市の制度説明会・ケアマネ連絡会等への参加を通じて、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行のホーム便りに特徴がある。1枚には利用者全員の最近の写真、もう一枚は上から本人の別の写真・ホーム長からの全体状況・担当者からのお便り・その下に編集後記があり、金銭管理や職員の異動等も報告され、家族からも喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等に内外の苦情・相談窓口が明記され、気楽に意見が言い易い家族との信頼関係作りに努めている。面会時や運営推進会議での意見はカンファレンスで共有し、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を最小限に止める努力をしており、馴染みの職員による介護が受けられるよう配慮している。入居前の訪問により顔馴染みになり、利用者の特性に合わせた事前準備をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は、専門雑誌を定期購読して職員の意識や知識、技術の向上に努めている。日々の介護に追われ、内部・外部ともに研修への参加が少ないが、研修に参加した際には、全職員が共有できるようホーム内で伝達講習は徹底されている。	○	職員数に余裕がないため、研修への参加が少ないが、職員やサービスの向上のためには是非学べる機会を増やしていただきたい。職員に合わせたテーマの研修に参加することで、個々の意識が高まり、より学びたいという意欲を引き出すことにより、更なるホームの発展が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の制度説明会・ケアマネ連絡会への参加、国や県のグループホーム協会への加入・参加を通じて同業者との交流に努めている。見学者や実習生の受け入れ等も行い、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にいつでも見学できるよう配慮されており、入居が決まった際にはホーム長と担当職員が利用者の許を訪門し、利用者が少しでもホームに馴染めるよう努めている。入居当日も、利用者の不安を少しでも軽減できるように、ホーム長は勿論、担当職員が出迎えるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と食事の献立を一緒に考えたり、調理するなかで、昔ながらの料理や野菜の切り方などを教え貰っている。礼儀作法などを学ぶこともあり、人生の先輩として、年長の家族として互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常的に利用者の思いや意向を引き出せるよう接しており、ユニット会議などにおいて情報交換をし、多面的に把握している。また、家族や他の関係者からも生活歴やなじみの暮らし方の情報も得る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、カンファレンスや、ユニット会議において、利用者の担当者、計画作成担当者を中心に、話し合い作成している。利用者や家族の意見や希望は積極的に取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じて見直し期間を、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と決め見直しを実施している。見直し以前に状態が変化した場合は随時カンファレンスを行い、見直しているが介護計画書には記録が残されていない。	○	見直し以前に状態が変化した場合の見直し結果、介護計画の内容の変更についても介護計画に付け加える等、経過が記録されるよう書式などを検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、入院時の付き添いなど、家族の状況により支援している。また、利用者、家族の要望に応じて理髪店への送迎、花見などのドライブ、外食などにも出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の利用者が同法人の病院を希望している。距離的にも近く認知症の専門医とも密に連携が取れ、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設して6年になり、その間3回の看取りを経験しており、同じ法人の病院が受け皿になっている。重度化した場合は、揺れ動く家族の気持ちを受け止め、本人にとってどのようにしたらベストなのか、の視点で話し合いを繰り返し、家族、職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員からは利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような対応は見られず、優しく丁寧に接している。記録物の管理について、職員の意識にバラツキがある。	○	記録など個人情報の取り扱いについて、職員の意識を高める為にも、マニュアルの作成を検討されたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望を大事にしておき、食事時間、入浴時間なども制限がない。できるだけ、自由に好きなことが出来るよう支援し利用者一人ひとりの個性を大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の好みを聞きながらホームの献立を作成している。買い物、調理、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルで同じものを楽しみ食する雰囲気も大事にしている。ホームの畑から採れた野菜が食卓にあがるのも楽しみの1つでもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者それぞれの希望時間に合わせて、午前中、午後、そして自立している利用者は夜間でも入浴が出来る。風呂嫌いな利用者も入れるよう、誘導成功例を職員間で共有し、工夫しながら誘っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は生活歴や日常生活の中から一人ひとりのやりたい気持ちを引き出せるよう支援している。利用者の持つ力に応じて、掃除、洗濯、畑仕事などもごく自然に行われていた。また、歌や絵を描くなどの楽しみも十分受け入れ、生き生きとした利用者の姿も見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を希望された時は利用者の力を見極めて、利用者だけでも送り出したり、職員と出かけるよう支援している。しかし職員の体制上対応できないこともあり、利用者の中には不満に感じている方もいる。食材の買い物には毎日利用者も同行している。	○	外出に関しては利用者の希望に応じた柔軟な対応をしているが、全体的に(特に2階)戸外への外出の機会が少ないように思われる。希望を表出できない利用者もあるので、お互いのユニットで協力しあうなどの支援体制について検討されるよう望みたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけない暮らしの大切さを認識している。できるだけ玄関に鍵をしなくて済むようチャイムを設置しており、利用者の安全を考えながらケアを工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、夜間想定を含めて年2回近所や消防署の協力を得て着実に実施されている。運営推進会議でも災害時の協力を依頼している。また、職員は月1回、交代で防災機器の点検を「自主検査チェック表」で行い、防災に関する自覚を身につけるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の指導に基づき、バランスの良いメニュー作りや調理に心がけている。個人の嗜好を把握し代替品にしたり、水分については居室にも用意するなどの配慮をしている。水分摂取量は、必要な人以外記録していない。	○	高齢者にとって水分の摂取は非常に大切な要素である。一人ひとりの摂取量を把握し記録することも検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である居間兼食堂は南向きで日当たりが良く、調理する際の音や匂いに生活を感じることができる。1階のユニットは、食堂からベランダに出て洗濯物を干したりすることが自由に行える。廊下には利用者が描いた絵が所狭しと飾られており、利用者同士の話題となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた家具や家族の写真、絵画や俳句の材料など馴染みの物が持ち込まれ、その人らしさが感じられると共に、安全で居心地のよい場が整えられていた。		